

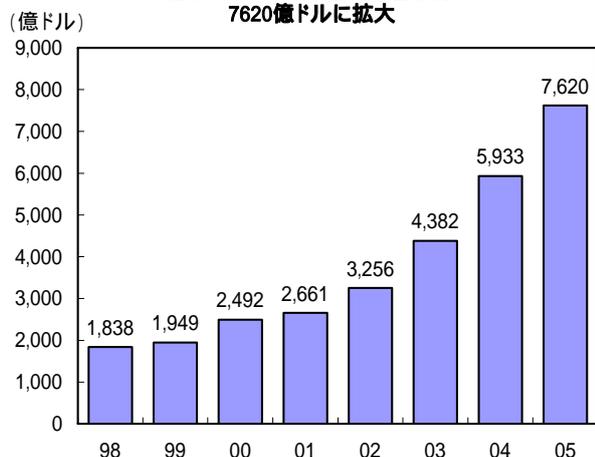
2006年2月3日

## 高成長の牽引役・輸出の現状と展望

2005年の年間輸出総額は7620億ドルに拡大

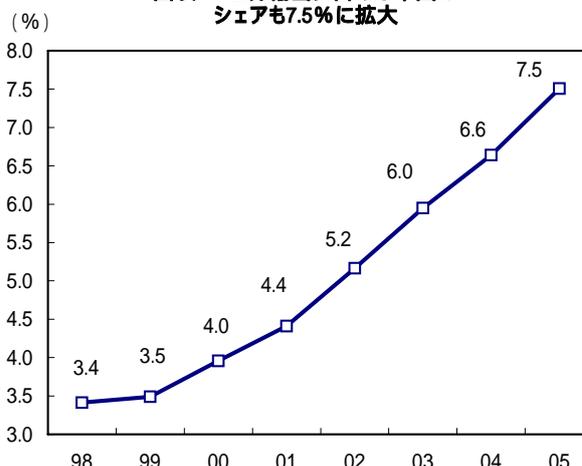
中国税関総署の発表によれば、2005年の中国の輸出総額は前年を約1700億ドル上回る7620億ドルにのびたという(図表1)。2001年(2661億ドル)から5年間で中国の輸出額は約3倍に拡大した計算になる。この結果、世界輸出に占めるシェアも2001年の4.4%から2005年には7.5%に拡大した見込みであり、ドイツ、米国に次ぐ世界第3位の輸出大国としての面目躍如といえよう(図表2)。

図表1. 05年の中国の輸出額は7620億ドルに拡大



(出所)CEIC

図表2. 世界輸出に占める中国のシェアも7.5%に拡大

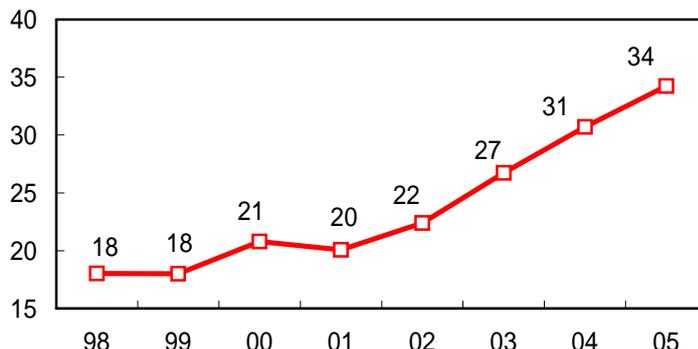


(出所)CEIC、IMF (注)05年の世界貿易はIMF予測値。

一方で、中国経済の輸出依存度(GDPに占める輸出の割合)も2005年には34%に上昇(図表3)。輸出が投資と並んで高成長を続ける中国経済の重要な牽引役であることが確認できよう。同時に、今後の輸出動向が2006年の中国経済の動向にも大きな影響を与えると考えられる。

図表3. 中国経済の輸出依存度は一段と高まる

(通関輸出額/名目GDP比、%)

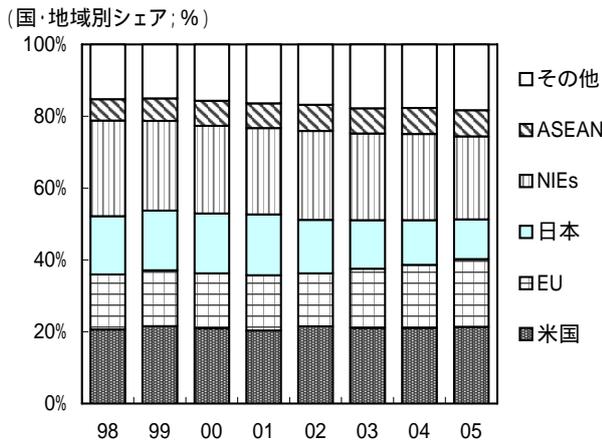


(出所)CEIC

市場の多角化と品目の高度化が進む中国の輸出

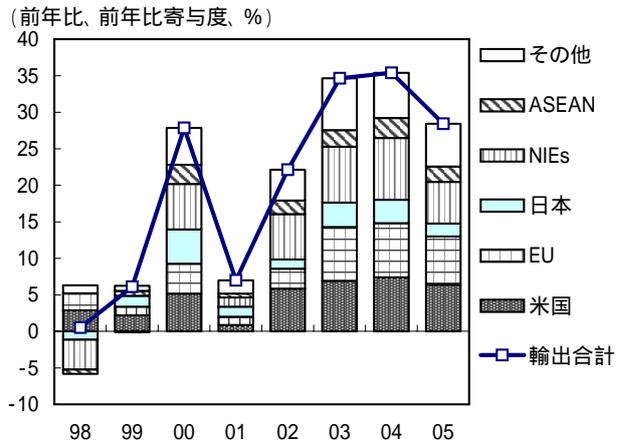
中国にとって最大の輸出市場は依然として輸出の約 2 割を占める米国である（図表 4）。次いで EU、NIEs（ここでは香港、韓国、台湾の合計）、日本の順となるが、ここ数年、EU 向けの輸出の伸び率が米国、日本はもとより NIEs、ASEAN 向けを大幅に上回る状況が続いている。このため、輸出全体の増加に対する国・地域別寄与度で見た場合、近年、EU の存在感が大きくなっており（図表 5）、結果として米国、EU、NIEs のそれぞれに輸出がおおよそ 2 割ずつ振り分けられる形となっている（図表 4）。

図表 4. 最大の輸出市場は依然として米国



(出所) CEIC (注) NIEs は香港、韓国、台湾の合計。

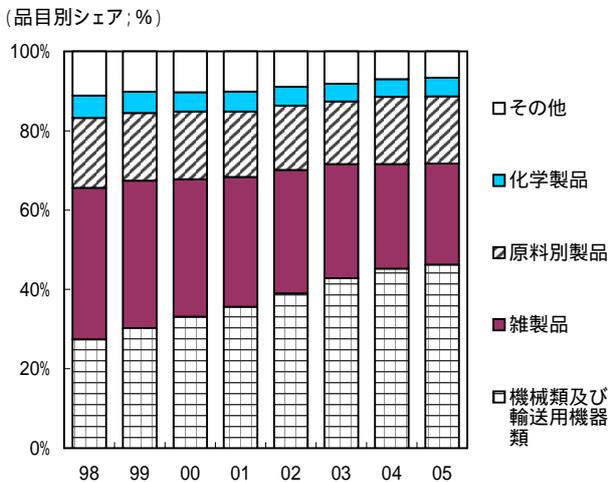
図表 5. EU 向けの輸出の増加寄与度が高まる



(出所) CEIC (注) NIEs は香港、韓国、台湾の合計。

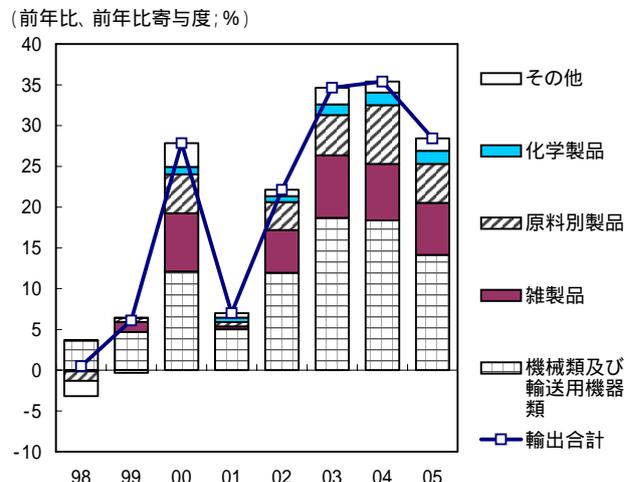
一方、輸出品目別のシェアの推移を見ると、衣類・履物といった雑製品に代わって電気機器をはじめとする機械及び輸送用機器類のシェアが大きく拡大しており、低コストの優位性を活かした輸出品から付加価値の高い輸出品へと輸出品目の高度化が着実に進んでいることがうかがわれる（図表 6、7）。

図表 6. 輸出品目の高度化が進む



(出所) CEIC

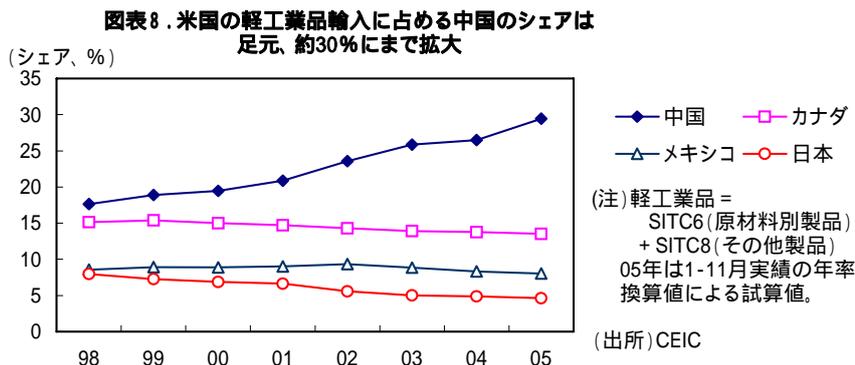
図表 7. 輸出拡大の牽引役は機械類



(出所) CEIC

2006年の輸出環境を占う

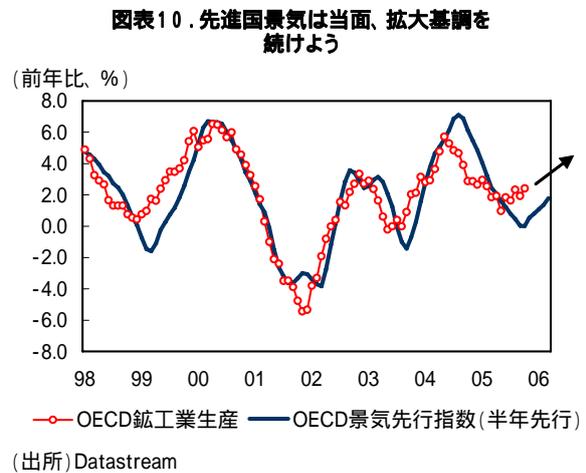
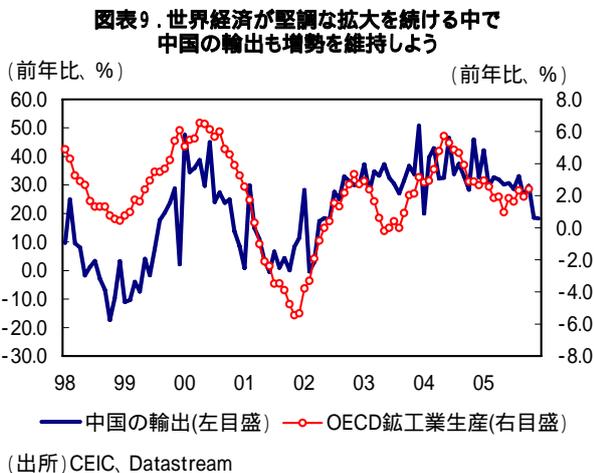
今後の中国の輸出動向を考える上で注意すべきポイントの一つは米国あるいはEUといった主要輸出市場との貿易摩擦であろう。特に米国は今年が中間選挙の年に当たるため、中国の輸出攻勢が雇用機会の減少につながっているといった論調で注目され、摩擦が再燃する可能性がある。しかし、米国にとって今や中国は主要な軽工業品の供給者としていわばビルト・インされた存在とも言えるだけに(図表8) この分野で大幅に中国の輸出が抑制される可能性は小さいと考えられる。ただし、米国と中米諸国との間の自由貿易協定(DR-CAFTA)の発効により繊維など中国の得意分野でシェアが脅かされる可能性はある。



一方、輸出品目の高度化の中で、中国は低コスト優位性 + の競争力、例えばブランド力などの向上を迫られるようになってきている。しかし、新たな競争力の確立は短時間では難しく、今後の輸出市場でのシェアの拡大は以前に比べればゆっくりとしたテンポになっていくと見られる。

もっとも、2006年は米国をはじめ世界経済が堅調な拡大を続けると見られることから、中国の輸出環境のベースは良好と言えよう(図表9、10)。また、FTAを通じたASEAN諸国との貿易関係の緊密化は中国の輸出拡大を下支えと考えられる。さらに近年、経済協力関係の強化が進むロシア、インドなど近隣の大国はこのところ高成長を背景に消費ブームに沸いており、中国の輸出には追い風である。

以上、総じて見れば、2006年もほぼ昨年並みの堅調な輸出拡大が期待できると考える。



調査部 野田麻里子(mariko.noda@murc.jp)